

『子どもが未来』

盛岡ひまわり学園は、1974（昭和49）年7月1日、盛岡市が現在地にあった旧少年鑑別所の建物を使用し、社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団が管理運営を受託する「盛岡市立ひまわり学園」として、定員30名で認可を受け事業を開始しました。

1982（昭和57）年6月に母子通園事業（通称「わらしっこ教室」）を、1983（昭和58）年6月に「盛岡市おもちゃ図書館」事業をそれぞれ盛岡市から受託しました。

1985（昭和60）年4月には、現在地で園舎を全面改築し、定員を50名に増員するとともに、旧盛岡市立しいのみ学園から17名の措置変更（学齢期児童の受け入れ）に伴い、岩手県立みたけ養護学校「ひまわり分教室」が学園内に設置され、養護学校教員と一緒に学齢児童の療育指導に当たりました。

母子通園事業は、2002（平成14）年4月に「わらしっこ都南教室」を、2006（平成18）年4月に「わらしっこ玉山教室」をそれぞれ開設しました。

みたけ養護学校ひまわり分教室は、在籍児童の卒業に伴い、2005（平成17）年度で幕を閉じ、2006（平成18）年度からは、就学前の幼児だけの在籍となりました。

知的障害児通園施設であった当学園は、2012（平成24）年4月から児童発達支援センターとして事業指定を受け、新たに地域支援事業として保育所等訪問支援事業と相談支援事業を加えました。

開設から51年を経た当学園は、2021年（令和3）年4月、盛岡市から当事業団が建物の譲渡を受けることに伴い、当事業団が岩手県知事から事業認可を受け、名称を「盛岡ひまわり学園」に変更するとともに、母子通園事業は親子通園事業に名称が変更されました。

半世紀近く歴史を重ねてきた当学園は、一貫して子ども一人ひとりのニーズを正確に把握し、長期的な視点で乳幼児期からの発達支援を行うため「個別の支援計画」を策定しています。子どもの実態とニーズに応じた適切な支援目標とその手だてについて、親子の思いや願いが反映されるように、保護者との話し合いを重ね策定した計画に基づき発達支援を行うことで、子どもの『権利擁護』『最善の利益』を目指すものです。

結びに、当学園の理念『一．一人ひとりの発達に応じた支援を行い、伸び行く力を育んでいきます。一．子どもと保護者の思いに寄り添い、共に歩み続けます。一．地域の子育て支援に努めます。』を実現できるよう『子どもが未来』という思いで、これからも子どもと保護者の思いに寄り添い共に歩んで参ります。

令和7年4月

児童発達支援センター

盛岡ひまわり学園 園長 山口 道明

